



題字 廉隅 進

## 部長退任にあたり

政治経済学部教授 BN 1000 長峰 章

来る三月末日をもってワンダーフォーゲル部の部長を退任することになりました。二十七年間の長きにわたり部長をさせていたいたことには感謝の念しか思い浮かびません。また、去る十一月二十四日には、私のためにあのように盛大な部長退任の送別会を開いていただきありがとうございました。この場を借りてお礼を述べさせて頂きます。感謝と感激の気持ちを抑えきれませんでした。

思い返すと、部長就任当初監督は鈴木善次郎氏（善さん）でした。最初に参加した夏合宿は九州の鹿児島のベースキャンプで、そのことは今でも忘れられません。沢山の部員が班ごとに隊列を組んでキャンプ地めざして集まって来るのを高台から眺めた光景は壮观でした。次の年は北海道での夏合宿でした。善さんとワンダーフォーゲル二人と私は合宿地に合流する前に、北海道の西側を北上するバス旅

## 第58号

明治大学体育会  
ワンダーフォーゲル部  
なため会会報

行きました。善さんのバシリタティに驚かされた思い出多い旅行でした。その後宿に参加し、部員に同行して高い山に登り、膝を痛めてやつとの思いで下山した苦く楽しい思い出もあります。

忘れてはならないこともあります。

一九九五年の合宿中に、滑落事故で堀井くんが亡くなりました。奇しくも平成三十年の夏合宿は堀井くんの地元の富山で行われました。ベースキャンプ地は堀井くんのおじいさんが生まれ育った場所でした。何かの縁を感じました。墓前で今後の安全なワンドレンジングを誓つてきました。

最後になりましたが、四月からは政経学部の後輩の高橋信勝先生が部長を引き受けてくれました。皆さんには新部長への御支援を宜しくお願いします。長い間ありがとうございました。

## みえざる絆に感謝して

政治経済学部教授 BN 1200 高橋 信勝

今は亡き関末代策教授の孫弟子にあたります。関先生は、ワンダーフォーゲル部の生みの親である商学部の春日井薰先生とは義兄弟であったと聞いております。関先生は第二次世界大戦後の明治大学の再建のために、春日井先生と一緒にまさしく東奔西走され、明治大学で退職後は春日井先生の願いを受けて和光学園の創設に尽力され、和光学園初代経済学部長を長きにわたり務められました。

関先生と春日井先生の別顔の交わりについては、渡欧中の関先生が春日井先生宛に送った海外便りの中から窺つことができます。

関先生は、便りのなかで「君と呼ぶ春日井先生に、イギリスを「君の故郷」と語りかけたあと、その田園風景の美しさを次のように描写しております。「5月18日の朝。途中から雨になつたので、一面に続く野原や、軟かいカーブの丘は、緑りが流れるように美しく、田舎の娘のスカートを染めはせぬかと疑はれるばかりであった。その間に、メイトリー〔May tree〕が雪のように白く咲きみだれてゐる」(『政経論叢』第一卷第三号、1926年10月)。関先生は、アダム・smithの足跡を追つてロンドンからスコットランドへ赴く途中、たまたま目にしたイギリスの國土のありのままの美についての感想を上のよう記されました。私は國や場所を問わず、時代を問わず、「自然の美しさ」をそのままに心象として焼き付け、讃嘆することに強い共感を覚えてなりません。

『六十年のあゆみ』(明治大学体育会ワンダーフォーゲル部、1997年)を紐としますと、1926年に留学を終えられた春日井先生がワンダーフォーゲル部の前身「駿台あるこう会」を始められたのが1928年、ワンダーフォーゲル部を創設されたのが1936年でした。春日井先生が当初めざされたのは、結核の病に倒れる人が多なからぬ時代に、大学生の体力の向上を図るべく、自然の山野の道ならぬ道を歩くことであったに違いありません。これに加えて、「六十年のあゆみ」のなかで私が興味深く拝読いたしましたのは、春日井先生が単にからだの問題を越えて、「綱領」に示されているように精神の涵養をも同時に追求されたことです。私は、この春日井先生のワンダーフォーゲル部に期待したこと、その実現をめざしたこと、同じく大学人として強く共感いたします。綱領の「我等の國土を遍歴して美しき自然に親しまん」との言説に触れたとき、私の脳裏には、春日井先生宛の関先生の便りの一節が鮮やかに蘇りました。綱領は「美しき自然の観照」となうんで、「祖國愛」、「友愛と協同の精神」、「スポーツ精神」の重要さを説く上で、ワンダーフォーゲルの活動に门外漢である私のような者にも、その目的を余すところなく伝えております。

今回、「みえざる絆」に導かれてワンダーフォーゲル部の部長を務めさせていただくことになりました。ワンダーフォーゲル部創設

者の春日井先生と関先生とのひとかたならぬ交友関係に思いを馳せるなかで、ワンダーフォーゲル部と私との縁に因縁めいたものを感じたし下さい。長峰章先生や「なため会」の皆さま方のお力「みえざる絆」を「みえる絆」にして下さったお力に改めて感謝申しあげます。今後のワンダーフォーゲル部の運営につきましては、これまで以上に監督、コチ陣、なため会との連携を密にすることはもちろん、人命第一主義のもと「綱領」の着実な実践をめざす所存です。なため会の会員諸賢におかれましては、ワンダーフォーゲル部のさらなる発展、引いては明治大学の発展につきまして、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。



長峰先生（中央）高橋先生（右）諏訪本監督（左）

## 長峰章先生に感謝

BN  
532 会長 鈴木 正彦

長峰部長先生、ワンダーフォーゲル部の部長を27年間の長きに亘りお引き受けいただき、誠にありがとうございます。

振り返りますと、初代部長の春日井薰先生（No.1）は昭和11年より13年間、二代目の木下勇先生は昭和25年より19年間、三代目・藤井耕一先生は昭和45年より6年間、四代目・杉浦忠夫先生は昭和52年より5年間、五代目・坂本清先生は昭和58年より9年間、六代目の長峰章先生は平成4年より27年間ということです。ケタ外れた長さであります。

27年の間には色々な出来事があったことと思いますが、我々にとつても忘れることのできない出来事と言いますと、平成7年から1年間長峰先生がイギリスのマンチェスター大学に在外研究に行かれていた時のことです。新田功先生が部長代行を務められています。今後のワンダーフォーゲル部の運営につきましては、これまで以上に監督、コチ陣、なため会との連携を密にすることはもちろん、人命第一主義のもと「綱領」の着実な実践をめざす所存です。なため会の会員諸賢におかれましては、ワンダーフォーゲル部のさらなる発展、引いては明治大学の発展につきまして、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

新田先生は事故報告書に以下のように記されています。「1995年10月21日、茂倉岳を下山中の堀井君は誤って斜面を滑落し、帰らぬ人となつた。富山県有数の進学校富山高校か

ら指定校推薦で明治大学商学部に入学し、2年次に在学中であった堀井君は、やり残したことがたくさんあつたに違いない。酒を酌み交わしながら夜を徹して友と語り、恋に胸をときめかせ、また、好きな山を次々と制覇していくこと・・・。残念ながら堀井君はどうした人生の喜び楽しみを味わうことができなくなってしまった。(中略) 堀井君を失い、同行した青木君も長期間の入院生活を余儀なくされたこの四大学合同ワンドルングでの事故は、60年の歴史を刻んできた明治大学ワンドラーフォール部における最大の不祥事である。部に関わるすべての者が今回の事故を深く反省し、もう一度原点に立ち返って部のあり方を考え直す必要があることを痛感している。このような事故が2度と起らぬよう、現役部員とのOBが一丸となって対応策を検討中である。謹んで堀井君の冥福をお祈りする。(後略)

以上の通り、山での事故は周囲に大変な影響を及ぼします。  
幸い、この事故以来、大きな事故は起きていませんが、それは長峰先生の尽力のお陰だと信じております。

長峰先生、長い間、本当にありがとうございました。

## 「長峰部長先生に感謝する会」の報告

BN 835 幹事長 猪狩 稔

平成30年11月24日に、明治大学紫組館4階

パーティールームにて、「長峰部長先生に感謝する会」を盛大に開催することができます。長峰章部長先生、高橋信勝副部長先生はじめとして、参加された会員の皆様、そして現役諸君に心より御礼を申し上げます。

平成4年4月に就任以来、27年間もの長き

に亘り部長の重責を務められた長峰先生には、部としてそしてOB会として、是非とも感謝の気持ちを伝えようと想いのもと、本年度のなため会の最大のイベントと位置付け、年初来準備を進めてきました。基本方針として、何よりも長峰部長先生に喜んでもらうこと、そしてなるべく多くの会員に参加してもらうことを心がけました。なため会としては、手厚く予算面の手当てをすると共に、準備活動に携わるメンバーを選任し、現役部員及びコーチと協働して緻密な準備をしてきました。多くの会員に参加してもらう観点では、長峰先生の在任が平成4年以降のことです、現役時代に長峰先生にお世話をなった平成世代をなるべく呼び込むべく集客活動に取り組みました。Facebookやメールマガといつた若い世代に向けたメッセージージを活用すると共に、各年代のキーパーソンに個別に連絡等を取ることで地道な集客活動を進めた結果、30名を超える平成世代の参加が得られたことは今後のなため会の活動にとっても意義であったと思います。また、会そのものを盛り上げる観点では、長峰部長先生にそして来年4月以降に部長に就任される高橋副部長

先生に楽しんでもらいたいことは当然として、会の参加者にも楽しんでもらうことにも意を尽くしました。長峰部長先生のイベントとしては、長峰先生の明るく気さくな人柄を存分に知つてもらうと共に、人生の歩みなども振り返つてもうおうと、「あきりの履歴書」なるインタビュー形式のイベントを企画しました。とある新聞社のOOの履歴書をもじったわけですが、長峰先生の率直かつ赤裸々な回答もあり盛り上がったのではないでしょう。また、高橋副部長先生には、スピーチをお願いすると共に、なため会のシンボルでもあるバックルを贈呈させてもらいました。そして会のはじめと歓談中には、スライドを流すことでの、我が部の長い歴史を感じる草創期、草津小屋時代、奥鬼怒山荘建設時、針生山荘建設時といった各時代の写真を紹介させてもらいました。いつどこで撮った写真かを探求する楽しみもあったのではないかでしょうか。綿密な準備の下できめ細やかに当日の会が進行できましたことについて準備メンバーに感謝いたします。

最後に、合計114名もの参加者に恵まれましたこと、何よりも、長峰部長先生が、スピーチにおいて「部長に就任してから一度も嫌な思いをしたことが無かった」との一言を伺う事が出来たことが何より嬉しかったです。今後のなため会の発展に繋げていきたいと思いますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

## 長峰章部長先生に感謝する会

■日 時 2018年11月24日(土) 12時30分~15時00分 ■場 所 明治大学 紫紺館

◆式次第

### 開 会

- 一、なため会会長挨拶
- 一、ワンダーフォーゲル部監督挨拶
- 一、乾杯
- 一、歓談
- 一、バックル贈呈
- 一、高橋信勝副部長先生挨拶
- 一、新四年生紹介

### 閉 会

- 一、長峰先生の履歴書
- 一、歓談
- 一、長峰章部長先生との思い出
- 一、バックル、記念品、花束贈呈
- 一、長峰章部長先生挨拶
- 一、部歌、校歌齊唱
- 一、写真撮影

◆出席者：116名（会員71名、学生45名）

●会員：71名

1000 長峰 章	1200 高橋 信勝	532 鈴木 正彦	558 奥倉 勇一	661 大賀 徹雄	683 横手 一男
751 謙訪本充弘	835 猪狩 稔	181 新村 貞男	299 大内 善一	301 小宮 盛治	345 吉田 修
392 内田 吉成	393 植木 正子	450 鈴木 要介	477 天野 傲明	478 大澤 英一	487 鈴木 康弘
501 前田 芳弘	527 池田 陽一	530 磯崎 守弘	601 池上 勝彦	610 石田 正	614 石井 克太
627 和田 満	705 杉山 裕	714 南出 進	717 住田 孔一	728 横尾 廣志	764 高橋 壽子
788 原田 博文	792 柳川 俊泰	817 和賀井英雄	859 丸山 貞二	871 平田 正博	897 山下 仁志
915 日暮 浩美	1006 安部 好洋	1017 山口 直樹	1064 井上 堅一	1106 前田 裕司	1115 上原 誠
1134 磯村 恵美	1137 清水 弘美	1156 中村 央	1157 浦部 賴之	1163 松尾 惺	1165 野口 修
1174 尾崎 剛史	1180 出浦 裕二	1182 川崎 剛	1196 中村 宏之	1211 末永 正樹	1213 伊藤 雅俊
1216 川澄 剛史	1226 杉山 文啓	1267 山脇 英明	1269 境 健成	1282 謙訪部貴亮	1283 鈴木 優花
1287 内山 嘉穂	1288 田口 和昌	1291 渡辺 千佳	1293 勝田 三月	1296 前川 晃慶	1304 松田彩友美
1305 永田 真帆	1306 由水 雅也	1310 神内 亜美	1312 高橋辰之介	2120 鈴木 元典	

●学生：45名

4年 今井 幹登	4年 大室 克磨	4年 奥山 昂	4年 平 将秀	4年 田中 雄大	4年 沼田 直也
4年 林 薫平	4年 福澤 光浩	4年 藤井裕希恵	4年 乗木 大朗	4年 守屋 雄貴	4年 森山 泽鵬
4年 吉田 理人	3年 青柳 晃太	3年 大原正太郎	3年 柿原 匠佑	3年 木皿京太郎	3年 小島 桃李
3年 杉井 一毅	3年 高橋 和大	3年 林 亮太	3年 北条 豪一	3年 星 與志也	2年 家子 貴暁
2年 伊藤 悠人	2年 梅澤 直希	2年 梅野 航	2年 岡田 茜	2年 尾島 佐和	2年 小野 剛志
2年 桑原倫太朗	2年 小林 亮太	2年 杉本 雪乃	2年 手島 寛人	1年 相磯 匡輝	1年 市川 拓真
1年 伊藤 秀嶺	1年 北上 泰河	1年 斎藤 慎太	1年 柴丸 貴	1年 芝本 真都	1年 田中 雄基
1年 三石 遼	1年 山川 大輔	1年 渡邊 延暎			



## あきら(長峰先生)の履歴書

### 長峰 章 (NAGAMINE Akira)

1949年 (昭和24年) 1月	埼玉県入間郡鶴ヶ島村 (現: 鶴ヶ島市) にて出生
	◎7人兄弟の末っ子
	◎家業は農業と酪農、畑仕事・牛の世話はお手のもの
	◎やんちゃな子供時代
1968年 (昭和43年) 4月	明治大学 政治経済学部経済学科 入学
	◎英語部 (ESS) への入部理由は・・・
	◎ロックに夢中 レッド・ツェッペリン、シカゴ、ボブ・ディラン
	◎ハワイ大学に夏期留学 「ハワイはパラダイス」
	◎就職説明会を飛び出し 「自由からの逃走」
1972年 (昭和47年) 3月	明治大学 政治経済学部経済学科 卒業
4月	明治大学 政治経済学部経済学科 経済学専攻 修士課程 入学
	◎社会とは人生とは「モラトリアム」
1974年 (昭和49年) 3月	明治大学 政治経済学部経済学科 経済学専攻 修士課程 修了
4月	明治大学 政治経済学部経済学科 経済学専攻 博士課程 入学
1978年 (昭和53年) 3月	明治大学 政治経済学部経済学科 経済学専攻 博士課程 修了
1979年 (昭和54年) 4月	明治大学 政治経済学部 非常勤講師 就任
1986年 (昭和61年) 4月	明治大学 政治経済学部 専任講師 就任
1992年 (平成4年) 4月	明治大学 政治経済学部 専任教授 就任
	明治大学 体育会ワンドーグループ 部長 就任
	◎部長就任の経緯は...
	◎夏合宿BCの思い出 (鹿児島開聞岳 北海道ウエンシリ岳)
	◎鈴木善次郎監督との北海道旅行
	◎忘れられない北海道のウニ
	◎最後の夏合宿
1995年 (平成7年) 3月	マンチェスター大学 在外研究
1996年 (平成8年) 3月	マンチェスター大学 在外研究 修了
2009年 (平成21年) 4月	明治大学 政治経済学部 専任教授 就任

## 高橋副部長先生のプロフィール

### 高橋 信勝 (TAKAHASHI Nobukatsu)

1971年 (昭和46年) 2月	宮城県にて出生
1993年 (平成5年) 3月	明治大学 政治経済学部 卒業
2000年 (平成12年) 9月	明治大学 大学院政治経済学研究科 博士後期課程 中退
2012年 (平成24年) 4月	明治大学 政治経済学部 教授 就任 ◎研究テーマ 古典派経済学・明治期の経済学啓蒙

- ◎趣味・特技：長時間の読書
- ◎座右の銘、好きな言葉：人生はいつも美しい
- ◎尊敬する人：高橋孝信（父）
- ◎好きな食べ物：吉次（魚）・洋梨
- ◎好きな歌：I love you (尾崎豊)
- ◎好きな芸能人：和久田麻由子(NHK アナウンサー)
- ◎意識している長所：前向きであること
- ◎生まれ変わったら就きたい職業：建築家

私は、OBとなつた後に、長峰部長先生とお会いする度に思い出す光景がある。それは、まだ40代の若き部長先生が、とある山頂で我々部員の注目を一手に受けて、エールを切つて居る姿である。私が4年時の平成5年夏合宿は北海道で行い、BCはウエンシリ岳（1142m）の麓となる紋別郡西興部村のキャンプ場に設定した。そのあたりは非常に雪深いところで、斜面では雪崩が続発し、深い谷に積まれた雪は夏まで残り、氷のトンネルが名物となるような場所であった。私の現役時代の夏のBCは2泊3日で、途中に全部員で登山を行うのが通例となつており、部長と女子班の合計8班体制で、全部員で80名ほどはいたであろうか。まだ若き部長先生は、BCの登山に参加し、ウエンシリ岳に登り、山頂で80名の部員を前にエールを切つてくれたのである。

部員にとって、部長とは、ある種偉い先生が務められる遠い存在であつた。私が下級生時代に、前任の部長先生が山を登つている姿は拝見したことはなかつた。しかし、長峰部長は、とても気さくで好奇心旺盛なお兄さん的な雰囲気を持ち、BCで登山イベントがあななら歩いてみたいとのことであつた。麓の

## 若き長峰章部長先生との思い出

BN  
1115 上原 誠

キャンプ場から山頂までは標高差約700m、部員でも実働4時間程度は予定されていたため、部長先生にお供することとなつた私は、どこで引き返すかを思案していた。しかし、元気な部長先生はあれよあれよと山頂まで登つてしまつた。そして、全部員が山頂でたむろしている中を、エールを切ると進み出て、北海道の夏空の下で見事我が部を一つにしてくださいました。帰りの下り坂では随分と膝が痛そうでしたが、そんな中でも明大節を高らかに披露して下さり、元気で痛快な部長先生に圧倒された思い出があります。

その後、27年もの長きに亘り部長先生を務めて下さったことも、夏のBCに毎年参加して下さったことも、部長就任当初の夏の楽しい思い出があつたからなのでは、と手前勝手に善解している次第です。部長先生への長年の感謝の気持ちを、長・峰・章という名前が入った短歌として心を込めて詠ませて頂きました。

【長い間ありがとうございました  
教え子に刻むなための章】

**長い間ありがとうございました**

BN 751 監督 謙訪本 充弘

長峰先生長い間ご指導ありがとうございました。先生との思い出は何といっても平成24年初夏の生田飲酒事件を挙げねばなりません。当時先生63才、私61才、共に還暦を過ぎた二人が頭を垂れて説教される。あまりにいため、部長先生にお供することとなつた私は、どこで引き返すかを思案していた。しかし、元気な部長先生はあれよあれよと山頂まで登つてしまつた。そして、全部員が山頂でたむろしている中を、エールを切ると進み出て、北海道の夏空の下で見事我が部を一つにしてくださいました。帰りの下り坂では随分と膝が痛そうでしたが、そんな中でも明大節を高らかに披露して下さり、元気で痛快な部長先生に圧倒された思い出があります。

その後、27年もの長きに亘り部長先生を務めて下さったことも、夏のBCに毎年参加して下さったことも、部長就任当初の夏の楽しい思い出があつたからなのでは、と手前勝手に善解している次第です。部長先生への長年の感謝の気持ちを、長・峰・章という名前が入った短歌として心を込めて詠ませて頂きました。

【長い間ありがとうございました  
教え子に刻むなための章】

BN 751 監督 謙訪本 充弘

長い間ありがとうございました

【学生部長、副学生部長とのお話しの場】

ん。当時先生63才、私61才、共に還暦を過ぎた二人が頭を垂れて説教される。あまりにいため、部長先生にお供することとなつた私は、どこで引き返すかを思案していた。しかし、元気な部長先生はあれよあれよと山頂まで登つてしまつた。そして、全部員が山頂でたむろしている中を、エールを切ると進み出て、北海道の夏空の下で見事我が部を一つにしてくださいました。帰りの下り坂では随分と膝が痛そうでしたが、そんな中でも明大節を高らかに披露して下さり、元気で痛快な部長先生に圧倒された思い出があります。

感謝する会の挨拶での総練書では言い切れなかつたことを補足しますと、私は針生に居て主務の岩田から一報を聞きましたが6月11日にスポーツ振興事務室から先生及びわたしに次のメールが来ました。

【今月8日に生田部室でワンドーフォーゲル部9名が部室において電熱器での焼肉

と飲酒をしていましたとのことです。部室での飲酒は厳禁としており、また9名中8名は未成年であつたこともあり、本日主将、主務を呼び出し指導、指導したようです。つきましては生田学生支援事務室から部長、監督、主将、主務連名の反省文を求めましたので、ご協力願います】

【続いて6月26日】

【さて6月8日の生田部室棟内で部員が焼肉及び飲酒をしていた旨、武藤事務長あるいは当事務室からご報告させていただきました。

【さて6月8日の生田部室棟内で部員が焼肉及び飲酒をしていた旨、武藤事務長あるいは当事務室からご報告させていただきました。

【長い間ありがとうございました  
長峰先生】

【長い間ありがとうございました  
長峰先生】

BN 1174 平成8年度卒 尾崎 剛史

【長い間ありがとうございました  
長峰先生】

私がワンドーフォーゲル部に入部し、初めての総会で長峰先生にお目にかかると思いました。とはいっても、部の最上級におられる方でした。とはいっても、最下級部員が話しかけることもなく、えらく遠い存在だなと思った記憶があり

を設定させていただきます。

第一希望 7月26日 13時～18時  
第二希望 7月24日 10時～12時  
第三希望 7月17日 10時～12時

【ご多忙の折誠に恐縮ですが宜しく願います】

ということで、7月26日13時に学生部長室で松橋学生部長、藤永副部長、武藤事務長の3名と面談して、私どもはただ頭を下げっぱなしという具合で屈辱の半刻を過ごしたわけです。

同日16時

【7/27午後生田部室の使用停止解除について】

部長、監督におかれましては、ご来室賜りありがとうございました。

さて標記の件、本日の学生部長との面談により、明日の午前中に生田担当者が解除手続きをいたします。取り急ぎ要件までもうしあげます】

なんとも長い50日でした。

ます。

4年生になった時、先生はイギリスに留学されており、新田先生が部長代行を務められていおりました。そんな時、谷川岳の事故を起こし、長峰先生にもずいぶんご心配をお掛けすることになり、大変申し訳なく思っています。

私は主務を務めていた関係で、長峰先生とお話しさせていただく機会は多かつたと思います。夏合宿の北海道のBCで、「マネージャーは車の運転が上手いね。」と褒められたことは今でもよく覚えています。

その後、コーチに就任したこともあり、長くお付き合い頂けました。入部当時、雲の方、というイメージでしたから、私も偉くなつたものだなとしみじみ思います。

長峰先生がよくお話しになるウエンシリ岳（北海道西興部村）のBCピストンは、私が1年生の夏合宿の時のことです。当時、上原さんが主将でした。長峰先生は、「すぐ行けるから」というので登つたけど、キックで大変な思いをしたよ。」とお話しされていますね。ただ、この時、長峰先生がウエンシリ岳の山頂で気持ちよさそうにエールを切られていたことをよく覚えています。非常にすがすがしい様子で、周りにいる現役部員も大盛り上がりでした。私、ワングルを辞めたかったのですが、そんな長峰先生のお姿と、喜ぶ部員の姿を見て、この部の良さを感じた記憶があります。ですので、私がワングルを続けられます。

たのは、あのウエンシリ岳のエールがあったことも理由なのかもしません。

これからも、ワングル部員の活動を見守つてくださいとおもいます。大変お世話になります。今後のご健勝をお祈り申し上げます。

## 長峰先生とのグルメな日々

BN 817 和賀井 英雄

長峰先生との一番の思い出に残るエピソードといえば、私が9年間務めたコーチ時代に毎年の夏合宿で味わう地元のグルメでした。その中でも忘れられない食材はウニです。その衝撃の舞台は積丹ブルーといわれる透き通つた海、そこで獲れる魚介類の宝庫北海道積丹半島の付け根の岩内町であった。そこで夏合宿のベースキャンプを設置した時であった。

宿泊したホテルは、お盆時期にも関わらず北海道在住の県会議員でもあった内海先輩の紹介で奇跡的に宿泊できたグリーンパークいわない。まず驚いたのは夕飯に出た「ざるウニ」だ！積丹のウニの特徴は、ウニが好んで食べる好物が雑味の少ないやさしい味の細目昆布を主食にしているために、純な味と濃厚クリーミーな甘みが特徴だ。

直径40cmほどのざるにウニが重なり合つて、私の食べる10年分位のウニの量だ。まずは箸でざるの端から端まで箸でズズーとすく

うとウニのミルフィーユ状態だ。あの感触は今でも忘れない。

翌日は現役諸君はピストン登山へ。私と長峰先生は車で積丹半島のクルージングへ。積丹半島の先端の小さな町の食堂でランチ。当然にうに丼を注文する。昨夜のざるウニとは違った美味しさであった。その後どんな高級寿司屋でウニを食してもあの時のウニの味を超えるものには出会っていない。

長峰先生長い間本当にありがとうございました。

これからもたまには夏合宿に遊びに来てください。またグルメを堪能しましょう！



現役部員より花束贈呈

## なため会秋田Wを終えて

BN 826 村木 隆

なため会秋田Wには、総勢28名のに参加をいたしましたが、誠にありがとうございました。色々と手落ちもあつたかと思いますが、ご参加の先輩方からは、ねぎらいのお言葉をたくさん頂戴し、感激しております。

さて、薰風への原稿依頼を受け、何を書いたらいいのか筆不精の私としては、W企画以上のプレッシャーを感じております。ただ、恐らく秋田Wの内容については、他の参加者の方が投稿されるでしょうから、私は秋田W開催までの裏話を一席…と、思います。

そのメールが突如として私のパソコンに入ってきたのは、平成29年10月14日のことでした。差出人は企画振興部濱田先輩……本能的に「ヤバい…見なかつたことに…」と思つても後の祭。既にメールは開けてしまつてました（濱田さん、ごめんなさい）

内容は「企画振興部で、なため会W計画を立てにあたり、来夏に秋田にて行う予定（すでに決まってる）…中略…無理にとは言いませんが、企画作成できるか検討いただきたい」とのことでした。

体育会である明治大学ワンダーフォーゲル部において、2年も上の先輩に、「これ、決定事項なんだけどよお…無理にとは言わんけど、お前やつてみないか?」と、無理を言われたら、これは気の弱い私は従わざるを得ま

せんつて。

こうして喜んでお引き受けすることになりましたが、実は私にはひとつ勝算がありました。いちばんには3学年下で、何を思つてか横浜から秋田くんだりまで嫁に来てしまった小林香織さんがおりまして、私と違つて度々山に登つていらつのじと。企画についてお任せ（丸投げ）することは、私の中できれもまた決定事項になつていきました。

また、まもなく発刊された薰風で、秋田県鹿角市の法テラスに尾崎剛史氏が勤務しているのを知り、さっそく連絡を取つて、3月31日この3名で懇親会兼第一回企画部会を開催することにしました。じつして、いよいよ動き出したのです。

まずは、場所。これは、80周年Wをほぼ踏襲することにしました。秋田県内において、景観・お花畠・近辺の観光地等を考えると秋田駒ヶ岳以外にはないと思われ、どなたも異存なく決定いたしました。

問題は、宿泊先でした。さて、何名位の参加となるものなのか？当初、地元を除けば、せいぜい10名位だろうと踏んでいたのですが、小林香織さん曰く、女子班に大々的に声をかける…とか、便乗して（笑）同期会を企画している代がある（確かに、フェークニュースではありませんでした）との話があり、もしかしたら、40名位になるかも…宿泊先をどうする？となりました。80周年で宿泊し好評だった「駒ヶ岳温泉」は、最大でも30名しか

収容できないとのこと。これはもう良心に反するものの、保険の意味で二股かけて予約しておくしかないな…となり、某ホテルに40名追加予約しました。30名以内なら、駒ヶ岳温泉。30名を超えるようなら某ホテル…としました。それでも内心、秋田までそんなんに参加はないだろうと、高をくくつていたというのが、ホントの所です。そして、企画振興部濱田先輩から、色々ダメ出しを受けながらも4月の下旬に会員への秋田W案内書を提出し、もう後には引けなくなりました。

さて、5月に入つて会員宛に周知したところ、2週間ほどで30名を超える申し込みを受け付けて、これはもう駒ヶ岳温泉は無理かな？と。大仙市在住の大御所・渡部彰悦先輩にお伺いを立てたところ、「宿泊先が二手に分かれるのはうまくない。駒ヶ岳温泉が全員泊まれないのであれば、他のホテルに一本化もやむを得ないだろ」とのご意見を頂きました。

私も同意見だったのですが、小林香織さんに某ホテルにするしかないんじゃない？と伝えたところ、「秘湯・鶴の湯とのパックを売り物にして案内書を出しているので、それを楽しみにしている方が多い。なんとか、駒ヶ岳温泉に宿泊増員要請をしてもらいたい」との要請（指示？）を受けました。今思えばこの時が、「すぐに諦める先輩」と「絶対に諦めない後輩」の立ち位置が逆転した瞬間でした。

駒ヶ岳温泉は幸いにも、当初から全館貸切での予約をしていたため、「寝るところは、廊下でも布団部屋でも構わない。なんなら、こちらからのシコラフを準備していい」との交渉が奏功し、四十名までなら…との回答を引き出すことができました。（翌日、食器がないので、やはり二十名まで…との電話をもらいましたが、じゃあ中を取つて、三十五名までとの結論に至りました。）これで、最大の難所を通過することができました。

さて次なる難所は、秋田駒ヶ岳登山口までのアクセスをどうするか？でした。路線バスは走っているものの、大型バス一台のみ。七月末は秋田駒ヶ岳の、ほぼトップシーズンですので、三十人近い人数では、乗り切れない可能性が大きいと思われました。一般車両の乗り入れは禁止されています。バス会社ではその日の状況を見て増発もあり得るが、増発の予約は受け付けていないとのことでした。

ところで、「絶対に諦めない後輩」の登場です。登山口までの道路が一般車両乗り入れ禁止であるが、「許可車両は例外」という点に着目したのです。そして、駒ヶ岳温泉に許可証がないか聞いた…つまり、「許可証があるなり、旅館のバスで登山口まで乗つけてつてくれ」という交渉をしたと書うではありますか…旅館で協議した結果、了解していただいたのです。スゴイ迫力ですねえ。ただし、「今まで、そういうことを言ってきたお客様はいなかつた」とのことですが…。



だきました。大仙市の渡部先輩には、細かいところまでご相談をしてご指示を仰ぎながら、進めてきましたし、宴会では秋田ならではのツマミを準備していただきました。大館市的小林雪夫先輩には、遠いところ自家用車でおいでいただいて、色々な荷物を積んでいただきました。まさに、地元が団結しての秋田W成功と言えます。

また、台風・熱中症など、心配された事項に関しましても、企画振興部の濱田先輩・平田さん・山下さんなど指導を頂きながら対策を講じることができ、無事に終えることができました。心からお礼を申し上げます。

今年の秋田は、その後の甲子園・金農旋風もあり、本当に熱い夏でした。

今後、機会があれば、なため会Wに是非参加したいと思っております。その節は、よろしくお願いいたします。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

## 秋田わんどるんび記

企画振興部

BN  
795 濱田 稔

今は昔 みちのく羽後に圓木、小はやしといふものはべりけり。邑木身の丈6尺二寸質実剛健なり。小はやし見目麗しく小野小町の再来とうはれる。都にて学を志し 山迷ひ彷徨に興じたり。  
久方ぶりに思ひて文などしたためことこの  
「秋田へまつりやんせ」との返事。あなうれし。

そのほかいろいろありましたが、戻切れトンボのよう申し訳ありませんが、あまり長くなつてもつまらないので、この辺でおしまいにします。

鹿角市の尾崎さんは、企画立案に参加頂き、また登山届やら、宴会の準備をしていた



ここが噂の「ムーミン谷」 雨でかえって幻想的雰囲気が増しました



チングルマの乱舞！



もっとも天気が良ければこんな絶景が広がります（某HPより）

友を集めて参らむと約す。

文月のころ 団木、小はやしはぐりし羽後  
へ こまちなる超早駕籠にて参りし。

羽後に駒ヶ岳といふ名山あり。团木、小は  
やし等羽後のひと5名、都人19名、老若男女  
うちそろえて登るなり。雨あり夏といえど氷  
室のじとし。けしきなかりしが、花いとうつ  
くし。阿弥陀池にてけしきなかりしに降りる  
べしと申したるところ ムーミン谷参りしに  
駒ヶ岳に登るなり、なたまひそとをなご申せ

る。池の淵に立ちたる小屋をまへに、來たし  
るしにびくちやあに收まりし後、をのこ13名  
降りるなり。宿にて湯あみを楽しみ酒を楽し  
み談笑す。あつまをなごら名をのこの名ムー  
ミン谷徘徊す。をなごいと強し。ムーミン谷  
あまた花咲き乱れ樂園なり。

夕刻 团木等羽後の人 駒ヶ岳温泉にて都  
人をもてなすなり。皆して酒肴を楽しむ。美  
味なり。酒池肉林にあらず。

いとおかし。  
湯前看月光  
疑是地上霜  
舉頭望山月  
低頭思故鄉  
歌など歌うもさうなり。彦星、織姫も楽し  
からざるや。  
酒肴し笑ひ転げたるうちに夜は更けつ  
よき思ひ出なり

BN 451 山田祥一先輩から標記感想文の手紙がありまして、下記のとおり転記します。

秋田Wでは、私達夫婦は田沢湖遊覧のあと、レストランで食事に「夏野菜の冷かけうどん」(850円)をすすめられ、冷えた稻庭うどんにオクラ、きゅうり、人参の入ったつけ汁で大変おいしくいただきました。たまたま庭にブルーベリーがなつていてのを見つけ、「好きだけ取って食べてください」と言われ、野菜汁に混せて食べましたい、なお一層美味しくいただきました。

角館観光においては、秋田在住のOB・OGの皆様のお気遣いに感謝いたします。

## 一〇一八年 情断会東北ワンデルング (焼石岳・南本内岳)

BN 788 原田 博文

今年は大曲在住の同期、渡辺彰悦に会おうという事で、なため会の秋田Wに参加させて頂いた。情断会としては、別行動で現地合流した加瀬を含め総勢六名。登山はあいにくの天気であったが、秋田在住のOG・OBの尽力により、楽しい時間を過ごさせて頂いた。また、他のOB・OGの皆様には大変お騒がせしました。失礼いたしました。

さて、情断会の小田野、富澤、小川、原田の四人は後半戦「南本内岳・焼石岳W」のために盛岡に移動。盛岡でレンタカーを借りて

前泊地である岩手県・西和賀町の湯川温泉に向かう。本日の宿「高繁旅館」は安さで選んだ旅館だったので多少の不安はあったが、なかなか立派な建物だし、おばあちゃん、お父さん、お母さんをはじめ、従業員の皆さんもとてもフレンドリーで素朴を感じさせてくれる。

お風呂も露天風呂、内湯ともに清潔だし何と言つても黄金風呂が気持ちよかったです。

料理も地元で採れた山菜をたっぷり使つた料理でこれも大満足であった。機会があつたらまた泊まりたい宿である。

翌朝は通常より早めに朝食を用意してもらい、しっかりエネルギーを補給して出発である。予定時間よりも若干早く出発したのであるが、カーナビと助手席のナビゲーターの見解の相違から若干遠回りをして林道に突入。と思ったが林道の入り口には「全面通行止」の看板。幾日か前に地元の役場に確認した時には通れると言つていたのに、看板は何かの間違いだらうという事で未舗装の林道に乗り入れだが、道幅は狭い。乗用車は問題なく通行出来るがそれ違いは無理。たまに待避所はあるが、対向車が来たときはどうやって待避所までバックするのだろう。オレ絶対バックしたくない。水を排水するためか、所どころ大きな段差があり、この為に借りたスバル・フォレスターでも最徐行。

こんな半端ない林道を約一〇キロ走つてようやく登山口に到着。もちろんほかの車はな

く、今日の登山者は我々四人だけだろう。予定より二〇分遅れでいざ出発。

しばらく杉の造林地を歩き、沢を渡れば杉林はブナの森に変わり傾斜も出てくる。標識「一」を過ぎると尾根筋の本格的な登りになり、汗が吹きだしてくる。標識「二」で尾根道になると時々涼しい風が吹いてくるがなんせ今年の猛暑である。体力はどんどん消耗する。尾根道は所どころ瘦せている所もあるが、歩きやすい道である。

新倉沢の渡渉点を過ぎてしばらく歩くとブナ清水がある。道端から湧き出す清水は「水质は保証しない」旨の注意書きがあるが冷たくて美味しい。水場を過ぎてナナカラマドやサラサドウダンの灌木帯を抜けるとお花畠コースと尾根コースの分岐に着く。ここは進路を右にとつてお花畠コースを進む。木道が整備されているが、あまり手入れはされていないようだ。湿原は明るくて気持ちが良いが、直射日光にさらされて暑い。ヒオウギアヤメやミズバショウ、シナノキンバイ、ハクサンチドリ等が群生しているが、花はほぼ終わっていた。

お花畠を過ぎると尾根に上がり、郡界尾根を合せてところで南本内岳山頂に向かう道と焼石岳に向かう道に分かれる。南本内岳は帰り寄ることにして、焼石岳方面に向かう。東成瀬からの道と合流した少し先には焼石神社の祠があり、祠の前で昼食にする。ここで初めて他の登山者と会った。東成瀬コースを下



て来た道を戻つて南本内岳に登り、尾根コース経由で下山する。尾根コースも利用者が少ないせいか刈り払いはしてあるものの、多少藪がかぶっている。左下にお花畠コースの湿原、右に牛形山を見ながら気持ちの良い尾根道をしばらく下ると、樹林帯に入りお花畠コースとの分岐に着く。あとは来た道を下るだけだ。

決してペースが遅かったわけではないが、予定時間から少し遅れて登山口に到着。そそくさと着替えてまた半端ない林道を走つて北上駅に向かつた。

事情には触れないが小生にとっては、秋田駒は一年の夏合宿、焼石岳は四年の夏合宿のリベンジであった。両方達成できてよかつたよかつた。

## 秋田駒ヶ岳ワンデルラング

BN 横手 一男

今は昔、一九六六年（昭和四一年）MWVの夏合宿が東北地方で行われました。私は一年生で三班のパーティーリーダーは清水邦彦さんでした。コースは秋田駒ヶ岳から八甲田山のベースキャンプ地までの行程です。上野駅発の夜行列車で盛岡駅に早朝に到着する。駅からバスターミナルまでキスリングを担いで歩く。一汗かいて到着する。バスで八合目に着く。そこから秋田駒ヶ岳を登り千沼ガ原～乳頭山～田代平で泊。夏なので午前中干コースタイムから遅れていたこともあり予定では姥石平をめぐる予定であつたが若干コースタイムから遅れていたこともあつ

も日差しが強い。一年生が日射病の兆しがあり、途中下山して午前中にサイトワークとなる。翌日は予定通りに進む。八幡平から藤七温泉でテントサイトした。リーダーの指示で温泉に全員入る。その日夜は天ぷら料理を作つて食べる。山では珍しい献立でした。

翌日はバスの時刻が早いので、四時出発でしたが、我々一年生は寝坊して遅れてしまつた。そこで蒸け湯バス停まで駆け足でいく。目の前を無情にもバスが発車してしまつた。そのおかげで行程がずれてしまつ。十和田湖を眺望できる発荷峠でしばし休憩となる。その後、広い山道を歩き続ける。暗くなつても歩き続ける。ようやくサイトワークの指示が出る。道にテントを張る。……

五十年前の記憶を辿り思い起してみました。夏合宿解散後は同じパーティの一年生西島兄、松葉兄等数人のグループと北海道を歩きました。青森駅から青函連絡船に乗り函館駅に到着すると、鳥城の香りが印象的でした。北海道周遊券で観光地巡りをしました。

二〇一八年（平成三十一年）7月28日東京駅発6時32分秋田新幹線で田沢湖駅9時21分着。スピード感が違いますね。秋田のOB諸兄に会うのが楽しみです。27名の参加者のほぼ私が現役時代を知つてゐる人達です。大館の小林（昭和46年度卒）さん、大曲の渡部（昭和50年度卒）さん、秋田の村木（昭和53年度卒）さん、大曲の小林香織（昭和56年度卒）さん、鹿角市の尾崎（平成8年度卒）さんお

世話様でした。山の天気は曇り雨でしたが、下山するときには雨が上がり眺望がよくなりました。高山植物もありましたのでよかったです。下山後の温泉も最高でした。翌日の田沢湖と角館観光も楽しかつたです。角館は桜の時期に来たいです。

### ■年間スケジュール

企画振興部

2019年度の山と親睦を楽しむため会ワンデルングを、次とのおり実施します。  
奮ってのご参加を、お待ちしております。

日 程	地 域
5月11日(土)	名古屋W(鈴鹿&懇親会)
5月12日(日)	丹 沢
7月下旬	大菩薩嶺
10月26日(土)	
10月27日(日)	
2019年 2月15日(土)	未 定

が危ぶまれる中、前回の12名を上回る15名の参加者を得て、楽しい懇親会となりました。なお、今回は範囲を拡げて広島在住のOBにもお声掛けしましたが、残念ながら広島地区からの出席はありませんでした。またの機会にお目にかかることがあります。

す。

自己紹介（15名中6名が初参加）&近況報告、スライドショー、なため&校歌齊唱、野中先輩によるエールと盛況のうちに閉会し、二次会へなだれ込みました。

前回の記念ワンデルングに引き続き、今回も余興としてスライドショーを行いました。出席者に写真を持参してもらつて、それをスマートフォンで取り込んでテレビに映しました。

「フォトスキャン」というスマホアプリを使うと簡単に写真が取り込めますし、テレビへの出力も専用アダプタとHDMIケーブルだけで済みますので、ぜひお試しください。

写真ですが、昭和50年代、60年代のOBのものは、絵面がほとんど一緒に違いが分かりません（薫風54号の坂上先輩の投稿を持見すると昭和40年代も同様のようです）。しかし、昭和30年代以前のOBの写真は興味深く貴重だと思いますし、この辺りの写真をなため会として収集し、保存しておく必要があるのかもしれません。

徳永OBには昭和30年代前半の写真をアルバムごと持参して頂きましたが、こちらの段取りが悪く、一部の紹介に留まってしまいま

した。申し訳ございませんでした。また拝見できればと思っていますので、よろしくお願ひ致します。

今後の展開ですが、地方はそんなに人の出入りがありませんので、懇親会はそのうちネタ切れになります。そうならないように懇親会とワンデルングを交互に開催しようかという話もありますが…。

これは個人的な願望ですが、将来的には、現役部員が参加してくれたらいいと考えています。地方出身者がどれくらいいるか分かりませんが、就職活動で地元に帰る4年生や帰



省中の1～3年生が参加してくれれば、楽しいものになるでしょう。

すぐに実現する話ではないので、手始めとして、現役の活動状況が分かる写真や動画を地方の懇親会に提供して頂ければ助かります。九州・山口においては、現役の活動を目にすることは4～5年毎の夏合宿BCのみで、ワンドルネルギー中のことを知る機会がありません。

今回は3年振りの集まりとなりました。

次回はそんなに間をおかずには開催されると考えていますので、九州・山口在住の皆様、九州・山口出身の皆様、その他九州・山口に縁もゆかりもない皆様、同期のみならず、先輩・後輩もお誘い合わせの上、ご出席くださいますようお願い申上げます。

（出席者）

BN 835 幹事長 猪狩 稔	浜田 和正	徳永 哲也	江口 基雄
	光浦 育	村山 孝	
	和賀井英雄	吉村 哲夫	
1035 937 817 819 810 365	野中 成浩	菱刈 正純	繁谷 浩
兼廣 克巳	佐々木 隆	高取 克好	斎藤 宏
1039 1013 917 811 658			

## 全国各地の懇親会幹事の募集

2016年に開催された会員アンケートでは、「地域の会員同士で交流できたら楽しそう」という意見を多くの方々からいただいておりましたが、皆様のご意向に沿うことができ

ました。お詫び申上げます。

さて、昨秋より、運営委員会の若手を中心

となり2019年度に全国5地域において定期的な懇親会をスタートして頂けるよう準備を始めました。

昨夏には、全国にさきがけて佐賀の高取克好さん（102）が幹事となり、九州・山口ブロックの日帰り懇親会が博多で開催されました。

東北地区では、秋田の尾崎剛史さん（1174）、

仙台の中村宏之さん（1196）が、いのたび快く幹事を引き受け下さいましたので、今夏に

懇親会の開催を計画しております。

名古屋地区では、天野樹明前会長（47）を

中心に懇親活動が活発ですので、若手の皆さん

が中心となり2020年より広域にお声かけ

していただき懇親活動を広げていただき

たいです。

つきましては、運営委員会では、各地域における定期的な懇親会を開催を全国に広めるべく、幹事をお引き受けくださる方を募集いたします。

幹事をお引き受けくださる方には、最新の会員連絡先の提供、開催案内通信費の全額補助、高取さん直伝のノウハウの提供等、開催のサポートをさせていただきます。

また、地域の範囲は特に定めておりませんが、九州・山口ブロックでは、会員の皆さん

が日帰りでご参加できるよう13時から懇親会を開催されたとのことです。

地域の懇親活動は地域の主導で推進してい

ただくことが柱ですので、幹事の裁量で地域を盛り上げて頂ければと思います。

近い将来なため金を担つて頂く30歳代～40歳代の皆様には、特にお力添えを賜りますようよろしくお願ひ申しあげます。

佐賀の高取さんには諸準備に当たりいろいろとご協力をいただきありがとうございます。

佐賀の高取さんには諸準備に当たりいろいろとご協力をいただきありがとうございます。

この場を借りてお礼申しあげます。

親睦会幹事をお引き受けくださる方、お問い合わせのある方は、総務部宛てに連絡をくださいますようお願ひ申しあげます。

お問い合わせ：なため会総務部

soumu@natamekai.org

## ウズベキスタンにて

BN 746 松井 幸市

皆さんお元気ですか？

中央アジアの国ウズベキスタンに行つて來ました。場所はウズベキスタンの首都タシケントの東、国境に近いフェルガナという所です。

8月19日に福岡～仁川（インチョン）～タシケント、19日～20日タシケント滞在、21日、飛行機でフェルガナに移動し現場に到着。仕事は日本政府のNEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）が当地の豊富な天然ガスの有効利用を提案し機械設備を売り込む、エネルギー開発設備の実証実験工事のコ

ンサルタントです。日本政府と日本企業の手伝いで、今回は土木技術者として基礎工事、機械設備据付け工事のコンサルタント業務です。以前本誌で紹介したインドもJ.A.I.C.A.でいわば新幹線の売り込みの手助けでしたから、最近は国策事業の手伝いが多くなっています。海外で稼ぐのは多かれ少なかれ国や企業のためになりますから似たようなものですね。

ウズベキスタンは東西に長い国で、首都はタシケント。その南西にサマルカンドというシルクロードやジンギスハーンの西征の拠点となつた有名な都市があります。シルクロードは2000年前から中国の絹を長安からローマ帝国にもたらした通商路で、昔はラクダを率いた隊商が多く行き来していたことでしょう。シルクロード（天山北路）はこの国を東西に横断しここフェルガナ～タシケント～サマルカンド～ボハラ～月の砂漠～カスピ海を回りヨーロッパに至ります。ちょうど陳舜臣の「チンギス・ハーンの一族」を読んでおり、タイムリーに物語の舞台の感覚を感じることができます。

フェルガナは昔は月氏の国「大宛」と呼ばれていたところで周囲を高い山に囲まれた盆地になつていて、水が豊富な自然が美しい街並みは「中央アジアの真珠」と呼ばれているそうです。タシケントもフェルガナも道路は広くゆったりとした街で「ゴミもなく整然としたきれいなところですが、旧共産圏の国だつ

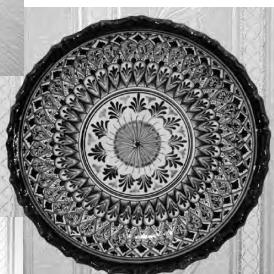
たためかいわゆる資本主義国のケバケバしさ（商業優先）はあまり感じられず社会主義国のそつけなさが残つているようにも思います。

タシケントやフェルガナの街、そしてホテルでいろんな顔の人々と会うことができ、文化と人種が交わり融合していく過去の歴史を肌で感じることができます。この国の料理はどれも美味しく、中国の麺料理や水餃子などを欧州・中東料理と同時にテーブルで味わえます。

ホテルの女性や通訳の青年、街、ホテル、名産のウズベキスタンブルーのお皿の写真を添付します。お楽しみください。



名産のお皿 →



↓ 街の様子



→ 泊まったホテル



← 通訳の青年



↓ 民族衣装の女性

## 〔新執行部紹介〕



高橋 和大  
会計、3班 SL、気象・通信係チーフ  
理工学部物理学科  
出身地：東京都  
明治大学附属中野高校



青柳 晃太  
主務、2班 SL、衛生・針生係チーフ  
理工学部電気電子生命学科  
出身地：東京都  
日出学園高校



杉井 一毅  
主将、4班 SL、装備・針生係チーフ  
商学部商学科  
出身地：静岡県  
静岡学園高校



林 亮太  
3班 PL、トレ・針生係チーフ  
商学部商学科  
出身地：千葉県  
千葉市立千葉高校



大原 正太郎  
2班 PL、気象係チーフ  
商学部商学科  
出身地：東京都  
國學院高校



柿原 匠佑  
1班 PL、装備・手白係チーフ  
政治経済学部政治学科  
出身地：福岡県  
福岡県立三池高校



北条 豪一  
1班 SL、衛生係チーフ  
総合数理学部現象数理学科  
出身地：東京都  
都立小山台高校



小島 桃李  
1班 SL、衛生・手白係チーフ  
法学部法律学科  
出身地：茨城県  
江戸川学園取手高校



星 與志也  
4班 PL、編集・手白係チーフ  
理工学部情報科学科  
出身地：東京都  
都立小山台高校



藤巻 日向子  
4班 SL、広報係チーフ  
政治経済学部政治学科  
出身地：埼玉県  
淑徳与野高校



木皿 京太郎  
3班 SL、装備係チーフ  
法学部法律学科  
出身地：茨城県  
茨城県立土浦第二高校

## 新主将挨拶

杉井 一毅

この度、平成31年度主将となりました杉井一毅です。ワンドーフォーゲル部がより良い部となるよう誠心誠意努めていく所存でございます。1年間、ご指導ご支援のほどよろしくお願い致します。

さて、今年度の部の方針ですが、「安全登山の遵守」「メリハリのある活動」「活動参加の徹底」の3点を基本方針として決定致しました。昨年度は大きな事故なく1年を終えることが出来ましたが、一昨年度夏合宿中の九州・傾山での滑落事故等過去に事故が起きていることもまた事実であります。そのため、昨年度から引き続きではありますが、合宿毎にトレーニングと合わせて衛生に関する講習を行い、基本技術の徹底に努めています。また、過去の事故やアクシデントの事例について、部員に紹介するだけでなく、当事者と仮定して考えさせるようなケーススタディも行っていく予定です。現在の部員の多くが一年のこと良く知る者であり、安全意識は高いと考えておりますが、今後もより一層の安全登山の体制を築いていきたいと思いま



リーダーとしての在り方、(私事ではあります)就職活動等悩むことは多くあります。

また、今年の主務が生田キャンパス所属の為、自分自身も含めた執行部の仕事の分担等も例年とは異なり手探り状態が続いています。他人の仕事を管理しつつ、自身を管理することの難しさにふれることは、主将

なりではの学びの場と考え精進したいと思

ます。

話は変わりますが、先日、長峰部長先生に感謝する会が行われました。遠方からのOB・OG様方のご参加も含めまして、多くの方にご臨席頂きまして大変ありがとうございました。企画・運営に携わって頂き、多くの場を借りて現役を代表して感謝申し上げます。何より、長峰部長先生・高橋副部長先生に喜んで頂けたようで胸をなでおろす気持ちです。

今年度は、春合宿で関西・中京方面、夏合宿で北海道等遠征する予定ですので、是非、各地方で現役とOB・OG様方との交流があればと思います。今後とも、我々現役部員をどうぞよろしくお願い致します。

**年間行事予定**

平成30年	10月	ワーク合宿(済)
平成31年	11月	秋合宿(済)
	2月	スキー合宿
	3月	春合宿
	4月	新人歓迎W
9月	5月	新人養成W
7月	8月	初夏W 夏合宿(北海道)
		正部員養成W リーダー養成W

## 平成31年度現役指導スタッフ紹介

- 部長：高橋 信勝
- 監督：諏訪本充弘
- ハーチ：井上 堅一 (751)  
諏訪部貴亮 (2821064)
- 浜口小百合 (21)
- 由水 雅也 (13061274)

### 現役部員数

準	OB	14名	(男13名 女1名)
4	年	13名	(男12名 女1名)
3	年	12名	(男9名 女3名)
2	年	15名	(男14名 女1名)
合計			54名

### 平成30年度卒業生歓送迎会のお知らせ

日時：平成31年2月23日（土）12：30～15：00  
受付開始：12：00  
会場：岸本・宮城ホール（明治大学リバティワー2階）  
会費：4,000円

### ■山小屋を利用したい方へ

左記の現役小屋係まで連絡願います。

- 奥鬼怒山荘（手白小屋）  
柿原 匡佑 090-148344-6020
- 針生山荘（針生小屋）  
杉井 一毅 080-3619-1907

- 主務連絡先  
青柳 晃太 080-6809-4606  
zwangeru@gmail.com
- 投稿募集のご案内  
□ 書類が愛読いただき、誠にありがとうございます。  
す。薰風では幅広い世代の皆様から投稿を募集し  
ています。

#### [テーマは問いません]

山やワンテンションにまつわるお話などに囚われず、皆様の身近な話題や趣味のお話から、野球、ラグビー、駅伝といったスポーツなどへの思い入れなど、何でも構いませんので、どうぞ投稿願います。

#### [投稿のスタイルも問いません]

紙面の都合がありますので、文章であれば原稿用紙3枚程度にまとめていただけると助かります。また、一部のページをカラー化しており、例えばインスタグラムのような写真がメインとなるご投稿でも構いません。お写真に簡単なコメントを付けていただくだけでも大歓迎ですので、よろしくお願いします。

#### [広告も募集しています]

現在は同期会の協賛広告や自営業の方のPR広告などにご利用いただいておりますが、例えば地方在住で観光業に携わっている方や、通信販売でご商売をされている方からの販促広告なども掲載させていただたいと存じます。

#### [応募先について]

次号（第59号）掲載分  
締切：6月29日（土）

送付先：巻末に記載の各編集委員または左記担当者

BN 879 井上 稔也

住所：〒176-0022 東京都練馬区向山4-12-16  
電話：070-15466-11521  
メール：maromaro.maroma8@gmail.com

\* FAXでの送付を希望の方は送信先をお知らせしますので、右記電話またはメールに記入して下さい。  
ショートメールでもOKです。

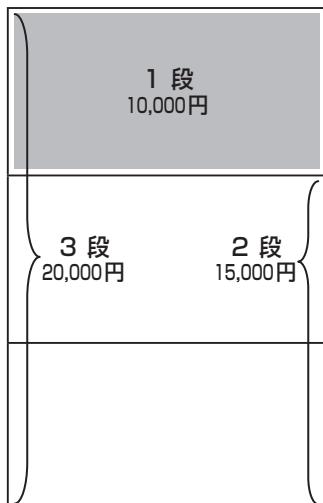
#### [会員情報の連絡先のご案内]

住所変更や連帯申事など、なため会員の動静について、下記の総務部宛にメールまたはファックスで送信していただくか、あるいは直接担当までご連絡願います。

総務部アドレス：soumu@natamekai.org  
ファックス：03-5930-14845  
メール：yy8888dono@docomo.ne.jp

小田野 義之 (775)

BN 456 住 所：〒343-0021 埼玉県越谷市大林428-14  
BN 467 電 話：090-2439-3463  
BN 467 メール：yy8888dono@docomo.ne.jp



計 報

BN 456 細矢正敏OBが平成30年10月6日に逝去されました。  
BN 467 市川嘉紀OBが平成31年1月4日に逝去されました。  
ここに謹んでお悔やみ申し上げます。



運営委員会の模様

### ■ なため会運営委員の募集

なため会では余の運営に携わっていただける方（運営委員、各部会員）を募集しています。ご希望の方は幹事長までメールまたは携帯電話でご連絡ください。

幹事長 猪狩 稔(835)  
電話 : 090-3903-7310  
メール : m.gari@taiyoukikai.co.jp

## 上原誠法律事務所のご案内

平成5年度卒 BN 1115 上原 誠

### <事務所所在地>

#### 上原誠法律事務所

〒101-0051

東京都千代田神田神保町1-7 日本文芸社ビル7階

TEL 03-3518-9750 FAX 03-3518-9760

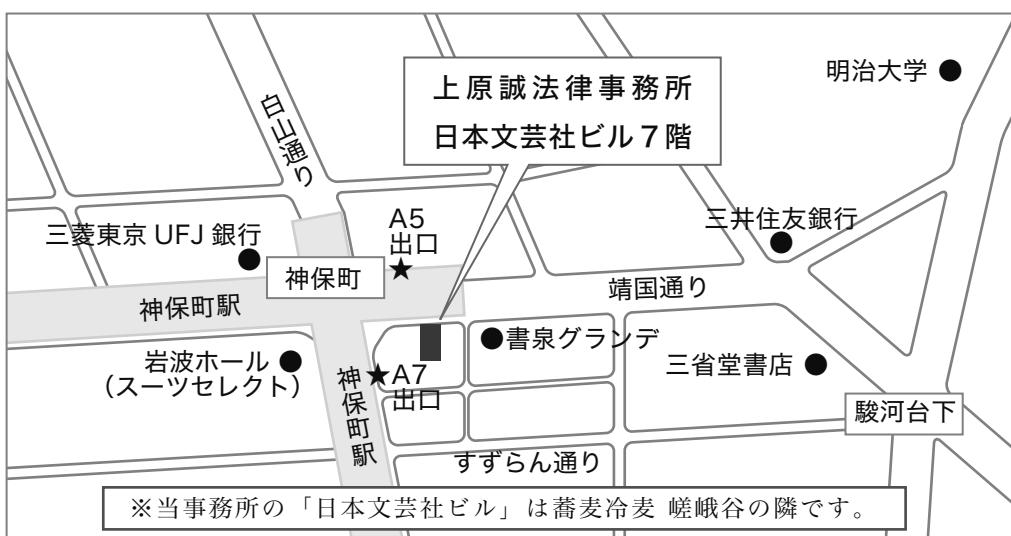
HP <http://uehara-law.com>

E-mail uehara@uehara-law.com

### <交通案内>

○東京メトロ・都営地下鉄神保町駅A7/A5出口より徒歩1分

○JR御茶ノ水駅より徒歩7分





2018.06.10

# 寒中お見舞い申し上げます

## 昭和39年度卒業 山久会

### 「編集後記」

BN 879 井上 稔也

この冬、訳あって23年間住み慣れた埼玉の片田舎を離れ、23区内に居を移しました。久々の引越しでしたが、片づけても片付けても出てくる積年の残骸というか、子育てまっしぐらの時代の遺物に埋もれ、断捨離と粋がついても口で言うほど事は進まず、腰に不安を抱える我が身の劣化も相まって、結構綱渡り的な一大イベントとになりました。

ところで、都心が近くなったので生活が便利になるかと思つていましたが、普段の買い物などは店が狭くて品揃えが少ないせいか、意外と不便を感じています。旧居は中途半端な田舎だったので、ちょっとと行けばショッピングモールのような大型店が幾つもあり、通勤時間を除けば暮らすのに何ら不都合は感じませんでした。

それはともかく、せつかくの機会ですから、ここから本当の意味で断捨離を敢行し、今後思い描くライフスタイルに必要なものだけを取り捨選択しながら、少しずつ削ぎ落していく生活に切り替えて行きたい思います。

発行者	平成三十一年一月
編集者	鈴木康弘 一色雅男 池上勝彦
石井克太 加藤章一	住田孔一 井上稔也 猪狩 稔
明治大学体育会 ワンダーフォーゲル部なため会	日暮浩美
印刷所	三協印刷株式会社